

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
.理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。	会議をしスタッフひとりずつの意見交換し全員で理念を作成した		再度会議を行い継続で良いか再確認を行いたい
2 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	理念を簡素化したことで共有しやすく日々取り組んでいる		ミーティングで地域密着の意義を掘り下げ地域に向けての取り組みを試みている
3 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。	家族に理念を伝えている 地域には運営推進会議でグループホームの事を伝える為の機会をもうけるという話をした		町内会の役員会に挨拶に出向かせて頂けるというところまで進んだため1歩1歩進めていきたい
2. 地域との支えあい			
4 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。	職員は買い物などで少しずつおなじみはできているが近隣の人達と気軽に声をかけあう機会まではない		13条通り添いの花壇の水やり草取りを手伝わせていただく話が了解された為それを機会に付き合いが出来ていけばと思う
5 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一人として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の行事に参加している。事業所と地域の人々が支えあう関係作りに取り組んでいきたい		町内会の会合、地域の集まりなどに参加しグループホームとの交流を増やしていきたい
6 事業者の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	これから日々取り組んでいくように努めたい		認知症の方をもっと理解して頂くように町内会の役員さんと連携をとり地域の方との交流の場を深めるよう取り組んでいきたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p>	自己評価、外部評価の意義を理解し具体的な改善に取り組んでいる	
8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	運営推進会議では報告や話し合いを行いメンバーの意見を尊重している。今後定期的に行うようにする	地域住民との関係が現実に進む事になり実現していきたい
9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p>	市の担当者への情報提供し、わからない事は助言を頂いている	まだわからない事もたくさんあり連携していきたい
10	<p>権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p>	地域権利擁護事業や成年後見制度について学んだ事を利用者や家族等に情報提供している	
11	<p>虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがない要注意を払い、防止に努めている。</p>	認知症の方の理解を深めることにより高齢者虐待防止法に関して理解し遵守するように常に伝えている	全体で勉強会ができるようにしていきたい
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	契約に関することは同意書を得ている 契約解除に関しては十分な説明をしている利用者、家族さんの不安、疑問点は説明をその都度している	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>13 運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>意見や不満、苦情について検討が行われ利用者本位の運営を心掛けている その都度話し合いをしている</p>		<p>センター方式の勉強会を行い実践していきたい</p>
<p>14 家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。</p>	<p>月に一回は手紙を書き金銭管理の報告、領収書等と一緒に郵送し電話連絡も取っている 家族の来訪時は利用者の状態を伝えている</p>		<p>職員の異動の報告もその都度していきたい</p>
<p>15 運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>苦情等は管理者が受けて要因を探り課題を職員と共に検討し質の向上に活かしている 苦情は少ない</p>		
<p>16 運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>会議や申し送り、朝礼で職員の意見や提案を聞く機会を設け反映させている</p>		<p>管理者は職員ひとりひとりの思いを把握できるように話し合いの場をもっと多く作りたい</p>
<p>17 柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。</p>	<p>利用者の状態やペースに合わせて職員配置をしている 行事の時は職員はボランティアとして参加している</p>		
<p>18 職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。</p>	<p>異動や離職を最小限に抑える努力をしている なじみの職員によるケアを心掛けている</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>パート職員へヘルパー2級を取得できるように勤めている。研修会にも順番に出席できるようにしている</p>	<p>職員の研修を勤務年数に合わせて受ける機会を確保できるよう努める</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>実践者研修にスタッフを参加させて質の向上及び他のグループホームとの交流に取り組んでいる</p>	<p>職員にも他グループホームと交流する機会をもっと増やしたい</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>日常や面接時、退職したい意向時等職員の話聞きストレスや背景を理解しストレス軽減できるように対応している</p>	<p>職員間での話し合いの場を定期的に行いたい</p>
22	<p>向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>職員の労働条件を整えている。年に一回職員の健康診断を実施、心身の健康を保つために対応している</p>	<p>就業規則を把握したい 勉強会の場を設け各自が向上心をもって働けるように努めたい</p>
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談から利用にいたるまでにはご家族からよく聴く機会を作り受け止めている。本人も同伴するように依頼している</p>	<p>面接時には本人も同伴して頂き本人自身からよく聴く機会を作りたい</p>
24	<p>初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談から利用に至るまで面接し、また待機期間はこまめに連絡を取ってお話を聴く機会を作っている</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
25 初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	相談を受けたときは家族が疲労困憊しているときなどで、相談員の方と話し合い他サービス機関の利用も勧めている		
26 馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	家族等の状況で利用が急がれる場合が多く、本人が安心し納得したした上でのサービス利用が実施できない場合。利用開始から本人が馴染めるように家族と相談しながら密な関わりをしている		利用者に遊びに来てもらったり行事の時に参加してもらったりと工夫していきたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	本人の思い・喜び・楽しみ・苦しみ・不安など知ることに努め、暮らしの中で共に分かち合い共に支えあえる関係を目指し努力している		センター方式を活用したい
28 本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	誕生祝い、行事に参加してもらい面会時には利用者の代弁者として職員は家族の関わり本人を支えていく関係を築くように努力している		利用者は家族の面会を楽しみにされていることを事情もあるがわかって頂けるように努力する
29 本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるように支援している。	家族に面会の機会を多くしてもらっている。一緒に本人を支えていく関係が築けるように努力している		家族の思いを知りよりよい関係が築いていけるよう日々努力する
30 馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	これまでの大切にしてきたなじみの人や場所との関係が途切れないように家族にも働きかけをしている		家族の思いを知りよりよい関係が築いていけるよう日々努力する。家族の理解を得て馴染みの人や場所との関係が途切れないように努力する

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	毎日のおやつ・食事時・リビングで過ごされているときなど職員も一緒に多くの会話を持つようにし利用者同士が関わり合えるように努めている		座席の見直しをし良い関わり合いが保てるようにしたい
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	サービスの利用が終了された方も行事に来てもらったり遊びに来てもらうなど継続的な付き合いができるように努めている		お手紙を書いたり写真を送ったりしていきたい
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ひとりひとりの思いや希望、意向の把握に努めている。自宅に帰りたい思いが強い方にはその都度よく話を聴いて係り方を検討している		センター方式を活用したい
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	ひとりひとりの生活歴・生活環境・サービス利用の経過等を家族の面会時に聞き取り方で参考にしている		センター方式を活用したい
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	ひとりひとりの生活リズムを理解し本人の心身状態や出来ることに注目している		センター方式を活用したい
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	本人、家族には日ごろの関わりの中で思いや意見を聞き反映させるようにしている。意見交換やモニタリングを申し送りやカンファレンスで行っている。		センター方式を活用したい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
37 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	介護計画の遂行状況、効果などモニタリングを行い利用者の状態変化、状況を本人家族の要望に応じて見直しを行っている。		
38 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別に記録に記入し食事・水分量・排泄等身体的状況、本人の日々の暮らし、エピソード等を記録している。		センター方式を活用した記録を取り入れていくようにしたい
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	事業所には各専門職がいて音楽療法士・理学療法士・ソーシャルワーカーと連携をとり柔軟な対応をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	民生委員やボランティア・警察・消防署に協力を得ている。		
41 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	本人の希望に応じて訪問理容サービスを利用している。		
42 地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括センターの職員が参加し周辺事情や支援に関する情報交換や協力を得ている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	連携病院が当グループホームの1Fにある沢口整形外科内科で受診支援をしている。院長・看護師が利用者の様子を見に来ている。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	認知症による周辺症状や状態の変化時には専門医を受診し診断や治療を受けている		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	1Fの沢口整形外科内科の看護師と相談しながら日常の健康管理や医療活用の支援をしている。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	利用者が入院した場合は家族と一緒に医師から病状説明を受けたり病院関係者と連携をとり早期退院に向けて努めている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	重度化した場合や終末期のあり方について家族やかかりつけ医と話し合い終末期の過ごし方を共有している。主に家族の意向を大切にしている。		ターミナルケアの指針を作成する
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるためにかかりつけ医と相談しチームとしての支援に取り組んでいる。今後の変化に備えて家族には十分に説明し了解を得ている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
49 住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	転院する利用者には環境変化によるダメージが少ないように転院先の関係者と連携を取っている。介護添書を渡している		別のグループホームに移り住む際、家族本人ケア関係者と十分な情報交換を行う。その後の本人の様子も情報交換したい
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
50 プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	ひとりひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応が無いように全職員に徹底化している		職員全体で話し合いの場を設けたい 勉強会もしたい
51 利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者に合わせて声かけを行い利用者が自分で決めたり納得して暮らせるように支援していきたい		職員全体で話し合いの場を設けたい 勉強会もしたい
52 日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ひとりひとりのペースを大切にしたい一日の流れは持っているが本人の希望にそってできるだけ個別性のある支援を行っていきたい		職員全体で話し合いの場を設けたい 勉強会もしたい
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	その人らしい身だしなみを本人の思いの表れと把握し本人の好みを第一に優先している。月に一回理容師が訪問をし本人の望む髪型にしている		
54 食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	メニューは委託業者が主であるがアレンジしている。利用者と職員が同じテーブルを囲み楽しく食事できる雰囲気づくりを大切にしている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
55 本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	お酒タバコを飲む人はいないが飲み物おやつはひとりひとりの好みのものを日常的に楽しめるように支援している		
56 気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	排泄のパターン利用者のサインを見逃さず尿失禁を減らすように支援している。失敗してしまった場合はさりげなく支援している		
57 入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	利用者ひとりひとりの体調や希望を確認し安全に楽しめるように支援している		
58 安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	ひとりひとりの状況に応じ本人の希望により居室リビングで休息したり眠れるように支援している		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59 役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	ひとりひとりの生活歴等を活かしたできる事への役割や楽しみごとの支援をしている。感謝の言葉を伝えるようにしている		地域の散歩・買い物・行事の参加等楽しみごと気晴らしの支援を利用者と相談しながら行っていきたい
60 お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	運営者が管理しているが家族が本人にお金を持たせてる、小銭程度自己管理できる方のみ所持されている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	ひとりひとりの状況にそって外出する機会を多くするようにしたい		外出する機会をタイミングを見て多くしたい 中庭のベンチで外気浴をしたい
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	家族と食事に出かけたりしている。また地域の祭りやイベントに家族と共に参加している		季節によって楽しめる事をなど職員でまた話し合い家族・ボランティアと共に出かけられる機会を増やしたい
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している。	本人自らが電話したりすることへの支援をしている。本人が話したい事等代弁して電話をしている		
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	本人の馴染みの人達がいつでも気軽に訪問できる個室があり居心地よく過ごせるように工夫している		
(4) 安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束の事は全職員が理解している。止むを得ない場合のみ家族と話し合い最低限に抑制する事がある。身体拘束をしないケアに取り組んでいる		
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	玄関は不審者の出入りのリスクを考えて施錠方式となっている。居室は鍵をかけないケアを行っている。職員の見守り方法を徹底している。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
67 利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	職員は常に利用者と同じ空間にいてひとりひとりの状況を把握している。夜間も巡回、物音がしたらすぐに居室に行っている		
68 注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	ひとりひとりの利用者の状況に合わせて注意が必要な物品は何かを職員で把握し管理方法を決めている		
69 事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為マニュアルを作ったり知識を徹底化しひとりひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハットに記録し事故報告書を作成し今後の予防対策を検討している		検討していく機会を増やしていきたい
70 急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	救急、救命法等の学習や訓練を徹底的に行っている。		全ての職員が訓練を行えるようにしたい
71 災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	消防署からも指導を受けてグループホーム内での訓練をしている		運営推進会議において隣近所の協力をお願いしたい意向を伝えている
72 リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	ひとりひとりに起こり得るリスクについて把握しており家族等に対して対応策を説明し相談もしている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
73 体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	ひとりひとりの体調の変化や少しでも食欲、顔色、便の症状、本人の訴えなどいつもと違うときは看護師へ報告し情報を共有している。状況により受診している		
74 服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルや処方箋のコピーをケースに整理し温度板にも記録し職員が内容を把握している。与薬確認している。申し送りで症状の変化や臨時薬の確認をしている		
75 便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	繊維質の多い食材や乳製品、水分を多く取るようにしている。できるだけ自然排便が出来るように取り組んでいる		
76 口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	ひとりひとりに応じた歯磨きの支援をしている。できるだけ毎食後に行いたい		
77 栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事、水分摂取状況を毎日チェックし記録している。ひとりひとりの嗜好を考慮し提供している		
78 感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	うがい、手洗いを充実させたりマニュアルを作成し職員で学習し予防対策に努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
79	<p>食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。</p>	<p>まな板、布巾、エプロン、手拭き等毎日漂白し時には日光浴をし清潔を心掛けている。冷蔵庫食器棚も点検掃除している。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	<p>安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。</p>	<p>入り口に手作りの案内板を掲示している</p>		職員間で常に話し合いをしたい
81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共有のリビングは居心地の良さや季節感のあるものを活用している。利用者は入眠以外はリビングで過ごす人が多い</p>		職員間で常に話し合いをしたい
82	<p>共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>リビングが広く思い思いに過ごされている。小上がりもあるがあまり活用されていない</p>		職員間で常に話し合いをしたい
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は馴染みのものや使い慣れたものを用意してもらい本人が居心地良く過ごせるように工夫している</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気によどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。</p>	<p>フロア、居室は空気によどみがないように喚起に心掛けている。利用者の状況をみて温度調節している。(集中冷暖房である)</p>		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容 ・ 実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取組んでいることも含む)
<p>85</p> <p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>バリアフリー、手すりなど廊下、トイレ、浴室の安全確保と自立した生活が送れるように工夫している。(廊下が広い)</p>		
<p>86</p> <p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。</p>	<p>ひとりひとりの混乱や失敗を防ぎ自立して暮らせるようにその都度スタッフで支援している</p>		
<p>87</p> <p>建物の外回りや空間の活用</p> <p>建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。</p>	<p>建物の外回りやベランダはあるが積極的な活用はできていない。2F中庭の活用も行っていきたい</p>		<p>職員で話し合い積極的な利用を考えたい</p>

サービスの実績に関する項目		
	項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんど掴んでいない
89	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	ほぼ全ての利用者 利用者の2/3くらい 利用者の1/3くらい ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族 家族の2/3くらい 家族の1/3くらい ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くない
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない

サービスの実績に関する項目	
項目	取り組みの成果
100 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどいない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

JR白石駅から徒歩5分程の立地にあり訪問に便利です。
整形外科の3階にあり理学療法士によるリハビリに力を入れ身体機能の維持向上を図っている。音楽療法士も週に一回きて脳の活性化とQOLの向上を図っている。